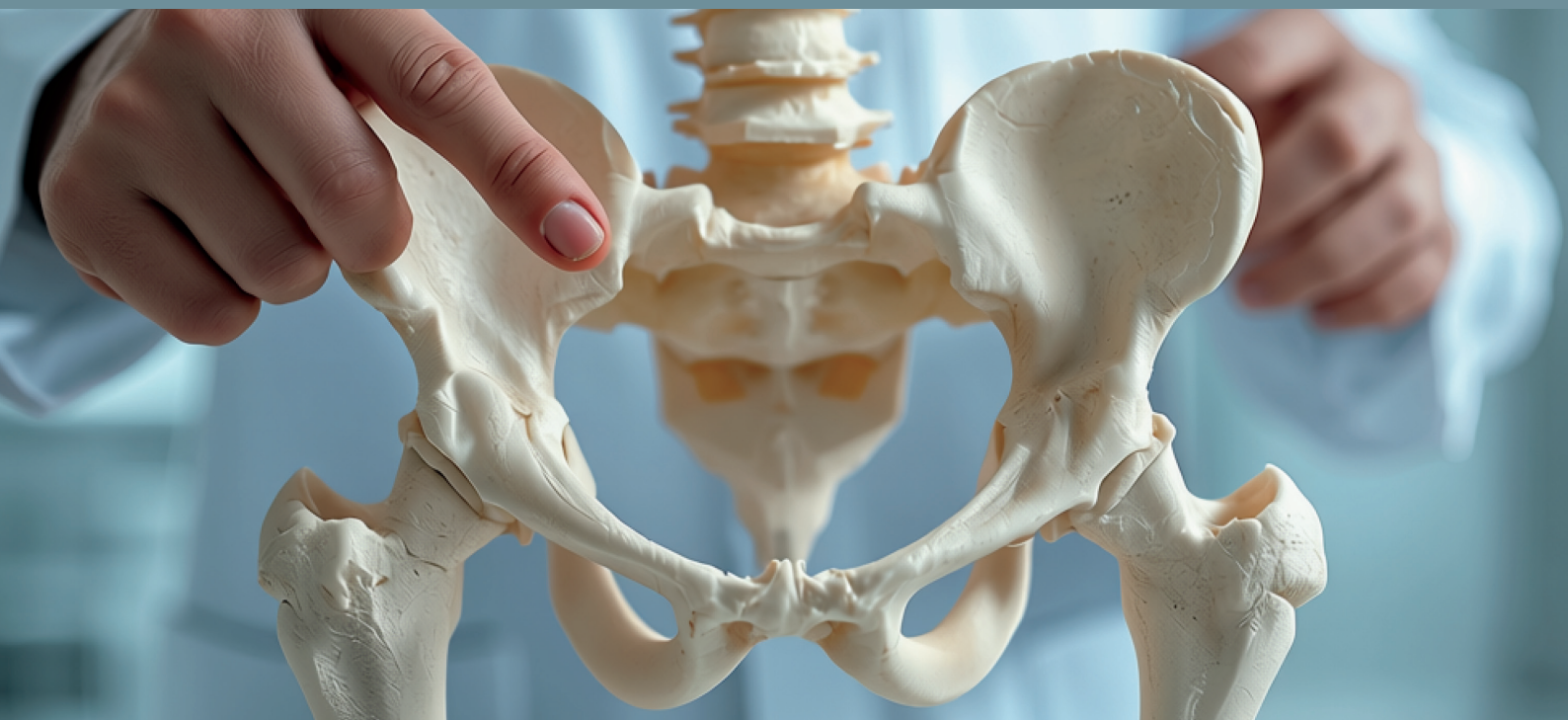




変形性股関節症の痛みと 人工股関節周術期疼痛管理

2026年10月23日(金)12:20~13:20

会場:第5会場(パシフィコ横浜 会議センター3階 315)

座長



金治 有彦 先生

藤田医科大学ばんだね病院

演者



西脇 徹 先生

順和会山王病院
股関節低侵襲治療センター

本セミナーは、日本整形外科学会教育研修講演として下記のいずれか1単位が取得できます(受講料1,000円)。
[N-11] 骨盤・股関節疾患 [N-13] リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む) [Re] 運動器リハビリテーション単位
また、本セミナーは日本リハビリテーション医学会生涯教育研修会の単位対象セッションです。

※本セミナーは整理券制ではありません。日整会の単位申請をされた参加者からご案内いたします。

共催:第53回日本股関節学会学術集会、日本シグマックス株式会社

第53回日本股関節学会学術集会 ランチョンセミナー5

日時:2026年10月23日(金) 12:20～13:20

座長:金治 有彦 先生(藤田医科大学ばんだね病院)

変形性股関節症の痛みと人工股関節周術期疼痛管理

西脇 徹 先生

(順和会山王病院 股関節低侵襲治療センター)

変形性股関節症は疼痛と機能障害を主症状とする代表的な運動器疾患であり、その疼痛機序は単一ではない。従来、変形性股関節症の痛みは侵害受容性疼痛が主体と考えられてきた。しかし近年では、末梢神経の障害や感作による神経障害性疼痛、さらには中枢神経系の疼痛処理異常による痛覚変調性疼痛(中枢感作)の関与が明らかとなり、疼痛を多面的に評価する重要性が認識されている。

人工股関節置換術(THA)は優れた除痛効果と機能改善をもたらす治療法であるが、一部の患者では術後も疼痛や満足度低下が残存することが知られている。近年の報告では、術前に神経障害性疼痛や中枢感作を有する患者では、術後中期成績や患者報告アウトカムが不良となる可能性が示されている。すなわち、術前の疼痛特性を評価し、患者ごとに適切な治療戦略を立案することが、良好な術後成績を得るために重要である。また、THAにおいては長期成績のみならず、術後超早期の疼痛管理も患者満足度や早期回復に大きく影響する。近年は多角的鎮痛の概念が普及し、術前から術後に至るまで包括的な疼痛管理が行われている。局所浸潤麻酔、アセトアミノフェンやNSAIDs、デキサメタゾンなどの薬物療法に加え、近年ではアイシングシステムを用いた局所冷却療法も注目されている。これらは疼痛軽減のみならず、炎症や腫脹の抑制、早期離床やリハビリテーション促進にも寄与する可能性がある。

本講演では、変形性股関節症における疼痛機序の最新知見を概説するとともに、術前の疼痛評価と人工股関節置換術後成績との関連、さらに周術期疼痛管理の実際と最新のエビデンスについて解説する。

アイシングシステムCE4000Ⅱのご紹介

ICING SYSTEM CE4000Ⅱ



- 術創部の腫脹の予防や低減、疼痛の緩和
- 患者さんの負担軽減や入院期間の短縮に貢献
- 0～18℃の温度設定で手間をかけずに連続冷却可能

・販売名 アイシングシステムCE4000Ⅱ・冷却療法用器具及び装置/管理医療機器/特定保守管理医療機器・医療機器認証番号 305AHBZX00015000・製造販売業者 日本シグマックス株式会社

～ 会場の日本シグマックスブース(小間位置:13)にてご覧いただけます!～